



川崎市民生委員児童委員情報

川崎市民生委員児童委員協議会

川崎市中原区上小田中6-22-5

発行人：森 昭司

編集人：小谷田 實



雪景色の枝垂れ梅

冬の間には花芽をつけた枝垂れ梅は、
春先に滝のような花を咲かせます。

(平成30年10月22日柿生第3地区鈴木会長撮影)

目次

各区・地区民児協だより	P2-5
主任児童委員の活動報告	P5
顕彰式典・表彰受賞者の紹介	P6
地域版活動強化方策について	P7
研修企画委員会・情報誌編集委員会の紹介	P8
編集後記	P8

『認知症サポーター養成講座』を受講していた良かった

大師第3地区
荒金 芳弘

買物に出かけたある日、高齢の女性の方がサンダル履きできょろきょろしながら歩いている姿を目撃しました。もしかすると徘徊かもしれないと思いましたが、そうでないかもしれないと思いをかけずにそのまま通り過ぎました。買物帰りにまたその方を見かけましたので、勇気をだして声をかけてみました。

『こんにちは。どちらへ行くのですか』『弟の家へ行きたいのだけど道が分からないの』と言うのです。『弟さんのお名前は』『〇〇よ』その方と一緒に弟さんである〇〇さんの家を探しましたが見つかりません。しかたないので自宅までお送りしようと思ひその方の名前、住所を聞きましたが、名前は教えてくれたものの、住所はわからないと言います。困っていると食事の宅配を行っている方に出会いました。事情をお話したところ偶然にもその方を知っている方で、隣町にある自宅の場所を教えてくださいましたので、お連れすることができました。

ご家族の方に事情をお話したところ、弟さんは既に他界されており、時々弟さんに会いにいくと言って外出されるとのことでした。無事に自宅に戻られたことを嬉しく思うと同時に、『認知症サポーター養成講

座』を受講していた良かったと思いました。

私は民生委員児童委員になって3年目の年に『認知症サポーター養成講座』を受講しました。当講座では、認知症になられた方の行動や、サポートすることの大切さを学びました。が、特に印象に残ったのは、徘徊しているかもしれないと思ったときは、勘違いを恐れずに勇気を出して声をかけてみるのが重要とのことでした。今回の件は『認知症サポーター養成講座』を受講していなかったら声をかけていなかったかもしれません。今後も積極的に声がけを実践していく所存でございます。



忘れがたい貴重な体験

南河原地区
石山 友子

私が民生児童委員を委嘱されてから、1年経過した時の経験です。高齢者支援課より連絡があり、Hさん(70歳後半・男性)の見守りをお願いしたいとのこと。私は何をどうすれば良いのか分かりませんでした。指示された通りに月2~3回Hさん宅に伺い世間話の中から、Hさんには見守りの中で何が一番重要なのかを考え、お話をしました。Hさんも安心して心を開き何でも話してくれる様になりました。世の中の悲哀・厳しさに耐え抜いてこられたHさんなので、人生の色々と参考になるお話もして下さいました。Hさんの様子は、3ヶ月に一度報告書に纏めて担当者に報告しました。

見守りを開始するにあたり対象者が男性の時は、訪問する委員も男性が良いとのベテラン委員のアドバイスですが、私の町会では民生委員は私1人です。

最初の訪問時には抵抗感もありましたが、Hさんが穏やかな人なので安心して訪問ができました。5年程経過したある日、見守りに伺った所、Hさんが突然お亡くなりになったとのことで、警察・消防の方が部屋で色々調べていました。私もHさんの様子を聞かれました。Hさんとは一週間前に

も元気な姿を見かけ、言葉も交わしていたので残念な思いでした。

Hさんの見守り活動の中から、自助・互助・共助・公助の大切さを再確認しました。

現在も高齢者が健康で毎日を安全に明るく楽しく過ごすために、何か変わった事はないかと注意しながら見守り活動をしております。



つながる

小杉第1地区
羽山 きよみ

小杉地区の民生児童委員をお引き受けして8年、地域ボランティアに携わるようになってから11年となります。この様な長い年月続けることができたのは？と、今回改めて考える機会をいただきました。

子どもの小学校でPTA役員をしていた私に、当時の町会長さんから『羽山さん、青少年指導員を引き受けてもらえないですか？』とのお話がありました。東北の震災直後だったこともあり、地域の大切さを強く意識していた時期でした。と同時に、子どもは小学生から中学生へとどんどん行動範囲が広がっていきます。当たり前のように思っていた地域の安心安全がどれ程大切か子育てを通して痛感し、私にも何かできるのでは？と、右も左も分からないままお引き受けすることを決めました。活動を通して、多くの方と接しているうちに気付いたことがありました。手を差し伸べているつもりでいた活動でしたが、実は皆さんから助けられていたのだと…。

地域の方々、民生児童委員の見守り対象の方々からの『ありがとう』『嬉しいわぁ』『また、お願いしますね』の言葉は、私をどんどん元気してくれました。そして、今では一緒に活動している委員の皆

さんとの"つながり"、地域の方との"つながり"は私にとって大きな財産となっています。

昨年来の新型のウイルスは人と人とを分断するウイルスと言われています。私たち小杉第1の民生児童委員も活動が極端に制限される中、今までの'つながり'をなんとか保つため、一人暮らしの方や見守り対象の方にメッセージを添えて不織布マスクをお届けしたり、会食会等の中止の案内にメッセージを添えてお配りしています。中にはわざわざお礼のお電話をくださる方もいらっしゃいます。とても励みになります。また、地域包括支援センター企画の"のんびりウォーキング"(等々力緑地内をゆっくり散策する)にお誘いしたところ、沢山の方にご参加いただきました。しばらくは"つながり"が途切れないように、細く長く続けていくことが何より大切なのだと感じています。

行事が全て中止になる中、月一度の定例会は辛うじて続けてきました。今後は、コロナ禍の中で多くの方と繋がっていくにはどうしたら良いのか？活動のスタイルを委員の皆さんと一緒に模索していけたらと思っています。

地域のちがいを乗り越えて共通認識を深める

高津第4地区
浅田 幾美

私たちの高津第4地区民児協は、高津区でも宮前区に隣接する坂の多い、梶ヶ谷地区と上作延・向ヶ丘地区からなる22名(欠員2名)の協議会です。私たちは、年間で4、5回自主研究会を開催し、自分の地域で起こっている問題点や個々の委員から困っていることなどを自由に出し合い、委員間の共通認識を深め全員の問題として考える場としています。

また、令和2年から3年にかけて、新型コロナウイルスの発生により、多くの活動が制限されています。コロナの発生する以前は、新任研修など実施すると同時に私たち民児協では、毎年、県外の施設見学などを行いながら、いろんな施設の運営方法や設立のいきさつなどを施設の担当者から聞き取り調査などを行い、対象施設の目的や運営状況など施設の共通内容など話し合いを行っています。

委員同士のコミュニケーションを図るうえでこれらの研修経験は、大いに役立っていると認識しております。そして、民生委員児童委員の任期が終わる、3年に1回の県外研修を計画して3年間の慰労を兼ねて実施しています。最初は九州を皮切りに、過去2回は北海道への県外研修となりました。前は障害

者の作業所の見学と出来上がったものの購入など少しでも役に立てばということで活動の支援につなげたいと考えています。

何よりも、一緒に研修に参加することにより委員同士の気心を理解しながら、民児協の運営に役立てていきたいと思ひます。

これからの民児協活動は、自主研究で個々の資質の向上を図り、委員間の実情をみんなの共通課題として自由に話し合いができ、気さくな会になるように会の運営に努力していきたいと思ひます。



障害者施設見学

コロナ禍でも民生児童委員は悩み、考えながら活動

宮前第5地区
平野 照男

昨年1月から断続的に続くコロナの蔓延に伴う行動自粛や緊急事態宣言の発出は、人と人とのふれあいの中で活動する民生児童委員に暗い影を落としています。しかし、そんな中でも小学校の児童の登下校時見守りの活動や一人暮らし高齢者の訪問活動などに頑張っています。そこで民生児童委員になって1期目の人と2期目の一部の人に、①民生児童委員になってよかったことや感動したこと、②民生児童委員をやってみて困ったことなどについてアンケートを実施し、聞いてみました。

まず、よかったことや感動したこととしては、登下校時見守り活動では「こんにちは」、「さようなら、気をつけて」などの声掛けに「さようなら」と返してくれると嬉しくなり、児童の方から何かと声を掛けてくれたりすることもあったりして児童との間に信頼関係が生まれ、また、一般の人にも挨拶してくれるようになるなど、やりがいのある活動になっています。初めて民生児童委員になった人はそうした活動を通じて、今まで見えなかったが地域の中でいろんな活動をしてきていることがわかって良かったとの感想も寄せられています。活動をしている中で

施設や役所などでは”民生児童委員をしています”と言うと信用して頂けるし、地域の人からも信頼されているように思いますとの声も出ています。

民生児童委員をやってみて困ったことは、「コロナ禍で活動が制限される中、個人で何かやれることはあるのか、やらなくてはいけないのか、わからない。」との声や「民生児童委員としての活動範囲や内容、活動区域が未だによく理解できません」との声とともに、証明事務などで個人宅を訪問する際に、先方がワクチンを接種しているかどうか不安に思うことがあるとの悩みも寄せられています。

今回のアンケートを通じて感じたことは、小学校の登下校時見守りはコロナ禍でも安心してできる活動であり、地域の方とのつながりのできる活動でもあり、民生委員はできるだけこの活動に参加して欲しいと思っています。また、民生児童委員の活動上の悩みを解決していく場として、定例会の際に部会の話し合いなどの機会を設けるなどの運営上の工夫が必要であると感じました。

民生委員児童委員になって20年を振り返る

菅第1地区
近藤 充紀

当初は社会福祉協議会（以下、社協という）と民生委員児童委員（以下、委員という）との活動は、社協7割、委員3割くらいの比率でした。中でも菅・中野島地域の稲田第二地区社協創立35周年記念誌発刊にあたり、当時の広報部一丸となり、6ヶ月と極端な短期間で、部員の方々には深夜まで数日間に渡り携わって頂きました。執筆を頂いた方々、貴重な資料の提供と適切な助言により平成13年3月に発刊出来ました。記念誌発刊は単純に社協活動というだけでなく、地区民児協との協力関係を深めることができました。

ある日、近所のアパートで火災が発生し、委員として何をすべきか、区役所の日赤担当者に連絡したところ、被災者に毛布等の用品が配布されることでした。現地に確認のため赴いて、警察官に委員であることを告げたところ、被災者はオーバーステイの方々であるとのこと、救援物資は渡さないと言われてしまいました。このアパートにはアジア系の方が住んでいることは確認していたが詳細までは把握出来ていませんでした。委員としては警察と連絡を取り合って調査する権

限はないので、事故が発生するまではどの様な方々が居住しているか解らないのが現実でした。

また、隣の住人の郵便受けに、新聞がたまっているとの連絡を受け、警察官立ち会いの下、調査したが鍵がなく、事件性も見受けられないことから、無理に立ち入ることはしませんでした。65歳なので老人調査票もなく、警察で調査し、親戚の方の預かっていた鍵で入室したところ、家の中で亡くなっていたことが翌朝5時頃連絡がありました。委員として何が出来るか、極力近隣の方々とも知り合いになり、不審な点があったら自分がこの地域の委員である旨PRしておくことの必要性を感じました。

母子家庭調査で訪ねると、玄関には男性ものと思われる大きな革靴があり、本当に母子家庭なのか判断に迷うケースも有ります。深くまでは立ち入りが出来ないが、男性委員であれば女性委員と同行するのも必要なことです。

委員は何処まで出来るのか、限界はあるが、残りの任期を全うしていきたいと思います。

皆様のお役に立て、仕事も充実、私の人生も新しく拓けた ～民生委員児童委員になって良かったこと～

柿生第2地区
征矢 守一

民生児童委員になり丸8年、新百合ヶ丘駅から徒歩圏内の地域を担当しています。自然も多く、公共施設やスーパーなども整っており、様々な方が暮らしていますが、町内会の施策などで人々の交流も図られています。

最初の会合のとき、纏まった活動マニュアルはなく、前任者や先輩に教えを乞えと説明され、根っからの会社人間である私は、ここも暗黙知（経験や勘など）の世界かと、やり方の違いに衝撃を受けました。

仕方なく見様見真似で民生児童委員の活動を始め、次第に本腰を入れてきた結果、人のお役に立てていることが今は実感できています。特に年配の方々とは心配ごと困っていることなどを中心にお話しましたが、若い頃にやった・やらなかったことの是非の反省や、更には夫婦、親子、友達などの関係にも触れました。これらについての本音や生の体験談は実に貴重なものになったのです。

私は人材サービス会社で再就職を目指す人の相談や研修特にライフプラン（人生計画・マネープラン・健康管理など）の講師を担当しています。そこで話す人生の先輩たちの具体例（取扱注意ですが）は、

内容に説得性や深みを加えてくれました。

会社人間には効率効果・スピード第一という習性と自分が育った世界が一番という思い込みがあり、なかなか消せません。例えば「訊く」の癖があり、「聴く」（コヴィー博士の言うプラス目と心、仏教では六波羅蜜と八正道の十四の心）が苦手になっています。

その他にも人は論理や理屈ではなく、感情優先で動くことや、人は皆それぞれであること、人間関係は関係であって一方的ではないことなども腑に落とさないと新しい舞台（転職先や地域社会など）ではやっていけません。

人にとって一番大事なのは、どう生きていくか、そのためにどうするかですが、民生児童委員活動で得たヒントによって、多くの人たちの考え方や行動に影響変化を与えることができたと思います。また私自身、自分を見つめ直す機会になりましたし、新しい道も拓け、とても感謝しております。

宮前区主任児童委員部会の活動

主任児童委員
目代 由美子

私は主任児童委員になって今年で20年になりました。この20年前から宮前区主任児童委員部会で変わらず毎年行っているのが公立保育園、認可保育園園長との交流会と、保健師との交流会です。

部会長になるとまず第一の仕事が毎年4月に行われている保育園園長との交流会の日程の調整を担当保育園の園長と決めることでした。20年前は保育園も公立保育園8園、認可保育園1園と少なく、少ないなりに主任児童委員と交流を深め合えました。例えば保育園に送迎のために保護者が車を駐車し、近隣より苦情が保育園にきたりするという話が出ると、主任児童委員の方からそのご近所さんを知っているから話をしてみるといったやり取りをしたり、又、ある保育園の担当主任児童委員が地域のさつまいも畑を紹介しそれ以後毎年その保育園では、民生委員と主任児童委員が一緒になって園児とさつまいも掘りをやっています。毎年園長との交流会を開いているので園長が変わっても顔見知りの関係を作っています。

20年経った現在保育園は公立保育園が3園になり、認可保育園は57園と大幅に増え、主任児童委員も対応に追われていますが、昨年今年はコロナ禍の

ため休み中です。

もう一つ20年前から引き続き行っているのが主任児童委員と保健師との交流会です。この会もまず年度初めに区役所の保健師の担当職員と年2～3回行っている交流会の日程を決めます。この時何年かおきの職員の異動があり今までの顔見知りの職員から新しい職員に変わると、また一から人間関係を築き上げながら話を進めていきます。保健師と主任児童委員の交流は支援の必要な赤ちゃん、幼児、児童を担当地区主任児童委員と共有し担当保健師と顔の見える関係を作りながら支援するのが目的です。

また、年に1回の施設見学は、コロナ禍の為昨年では中止。2年前は箱根の宮ノ下の学校跡地に移転したばかりの児童養護施設箱根恵明学園を訪問、見学してきました。移転前と同様学校を併設し学校の上の階が子ども達の住まいで、とても子ども達が人懐っこかったのが印象に残っています。

昨年よりコロナ禍で活動が十分にできませんでした。宮前区主任児童委員部会が明るく楽しくをモットーに活動していきたいと思っています。

令和3年度 川崎市民生委員児童委員顕彰式典

副会長
今 富子

毎年開催しております「川崎市民生委員児童委員顕彰式典」は、10月7日秋らしい過ごしやすい気候の中、健康福祉局地域包括ケア推進室の鹿島室長、川崎市社会福祉協議会の浮岳会長、川崎市民児協の富岡顧問にご臨席頂き、緑ヶ丘霊園内にある「民生委員児童委員の碑」の前において執り行われました。

今年で34回目の式典ですが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年と同様に規模を縮小しての開催でした。この式典は先人たちの功績とご苦勞に感謝して、これからの活動に対する決意を新たにするとともに、長年にわたり功勞のあった委員の方々を表彰するために開催されます。

今年度は会長表彰者が40名（各区代表1名出席）と、この1年間に志半ばにして亡くなられた方への感謝状が5名（ご遺族1名出席）の方へ贈呈されました。来賓の方々からは、民生委員児童委員の皆様への活動に対するお礼と、これからもく隣人愛><奉仕の精神>で活動して頂きたいとのご挨拶を頂き、地域福祉の在り方をいろいろと考え

せられる式典でした。

民児協の森会長からは20年にわたり民生委員児童委員として活動を続けてこられた方のご功勞に対してのお礼と、亡くなられた方々のご功績に感謝のお言葉があり、これからは先人の意思を引き継ぎ、民生委員制度を発展させていくために努力していく事を誓われました。



令和3年度 表彰受賞者の紹介

第90回全国民生委員児童委員大会

期日：令和3年10月26日(火)～27日(水)
会場：京都パルスプラザ他
※規模を縮小し、京都府・市の委員のみ参加

全国民生委員児童委員連合会会長表彰

◎優良民生委員児童委員協議会

柿生第2地区民生委員児童委員協議会

◎民生委員・児童委員功勞者

鹿島 千鶴子（大戸第3）

◎永年勤続民生委員・児童委員

川崎区25名、幸区19名、中原区27名
高津区18名、宮前区20名、多摩区17名
麻生区11名（計137名）

令和3年度 全国社会福祉大会

期日：令和3年11月19日（金）
会場：メルパルク東京ホール
※開催中止

厚生労働大臣表彰

◎民生委員・児童委員功勞者

網屋 英子（御幸西第1）

佐野 啓子（小杉第1）

鈴木 正視（柿生第3）

◎民生委員優良活動団体

丸子地区民生委員児童委員協議会

全国社会福祉協議会会長表彰

◎民生委員・児童委員功勞者

伊藤 孝子（小杉第2）

竹仲 密昭（高津第3）

向井 ふみじ（大戸第1）

「地域版 活動強化方策」の活用について考える

東海大学工学部特任准教授 後藤 純

なぜ、いま活動を強化しなくてはいけないのでしょうか。なぜ活動は弱体化してしまったのでしょうか。何か新しいことを始めようとするとき、これまでの何が問題だったのか、その要因を振り返ることが大切です。これまで地域の先輩達が、身近な地域で起きる様々な困りごとの解決に腐心してきたように思いますが、その努力が間違っていたのでしょうか。私は、むしろ、地域は、請われるままに様々な課題に取り組みすぎてきたことが弱体化につながったのではないかと考えています。

地域が様々な課題に取り組むようになった背景を2つ挙げます。1つは、少し前まで、二世帯家族、企業戦士の旦那さんと家庭を守る専業主婦や兄弟姉妹愛といった家族・世帯単位の助け合いが機能しており、地域はそこに寄り添えば良かったのです。しかし、現在は単身世帯、シングル子育て世代、老老夫婦など、暮らしが個人単位になり、家族・親族による助け合いが機能しません。複雑化する生活課題や社会保障制度の狭間で行き詰まる人に、直接寄り添うことが求められ、それなりの気力・体力が必要です。

2つ目は、「コミュニティの組織化」の課題です。コミュニティの組織化とは、公的な福祉サービスを住民一人ひとりに提供しようとするとき、行政だけではきめ細かな対応に欠けます。そこで、行政と住民の間に、コミュニティの中から信頼されている住民をコーディネータとして配置し、地域で協議会を運営して施策の方向性を議論したり、住民が参加しやすい工夫を考えたりと、公的福祉サービスを届けやすくする仕組みです。しかし現代では、個々人の価値観が多様化し、あるコーディネータがコミュニティの価値を代表し全員の信頼を得ているとは言い難くなりました。このような状況ですから、生活に困った住民は地域に相談することをためらい、直接行政に相談したり、場合によっては問題が事件化してから発見されること

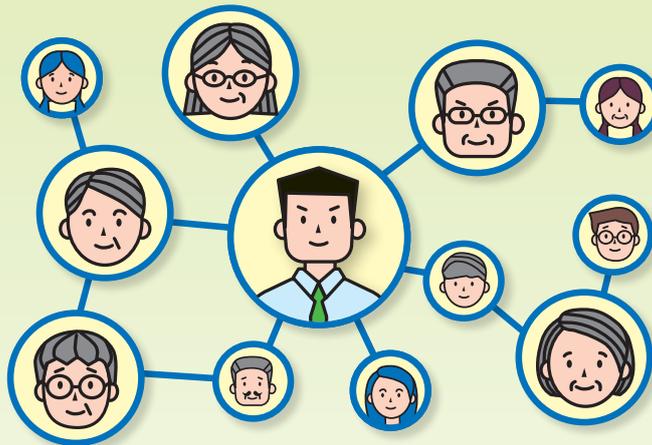
が増えます。行政は、これでは困りますから、地域に対して「連絡・調整会議をお願いします」「つないでください」という依頼=仕事を増やします。

そこで、今回の地域版活動強化方策の策定は、現在担っている役割や業務を、みなさんで一旦棚卸をしてもらい、あらためて地域の目指す方向性を考えていただく機会として活用してはどうかと考えています。検討ポイントは、まずは対話の機会を持ちましょう。このまま何もしないで放置すると、地域はどうなるか。最近活動するなかで不安になったこと、ワクワクしたことを共有しましょう。次に、隣人愛が信条ですから、大上段に構える

のではなく、閉じこもらず・フレイルにならない程度の交流を手厚くし、そこから相談に乗り、行政につなぐという視点で、業務棚卸をしてはいかがでしょうか。そして、そうはいってもみなさん頼まれば断れないのだと思います。この活動が、みなさんの自己肯定感を高めているかどうか

を話し合う、これが3つ目のポイントです。

さて川崎市は地域包括ケアシステムの一環で、2018年度から地域マネジメントとして、「地域の目標を地域全体で共有しながら、個々の活動が1つの目標に向かってより効果的に機能できるような仕組みづくり」を進めています。具体的には、各区役所が、みなさんと同じく地域課題の棚卸をして地区カルテを作成しています。市のHPなどではみられるようですが、地域の中ではまだまだ知られていないようです。みなさんの活動強化方策の検討の後に、行政側とも今後の活動の方向性について対話していただき、少しずつ役割分担が進み、地域に笑顔があふれ、みなさんの自己肯定感が高まる、そんな巻き直しの機会になって欲しいと思います。



川崎市民生委員会・児童委員協議会委員会の紹介

研修企画委員会について

小宮 秀樹

この2年あまりの間は、研修会の開催に向けて試行錯誤の連続でした。前期の委員から引き継いで間もなく、新型コロナウイルス感染症があつという間に感染を広げ、4月に最初の緊急事態宣言が発せられました。会場の定員が制限されたこともあり、研修会を企画しては、延期または中止とせざるを得なくなり、歯がゆい思いをいたしました。

委員会にとって、研修会が開催されなければ、アンケートの集計も成果を振り返ることもできませんから意味がありません。研修会を実施するまでには、内容の確認、講師の選任、会場の選定、当日の役割り決め等、数度の会議が必要になります。感染拡大が続く中、どうしたら実施できるのか、その一点でした。これまで感染予防対策を考えたり、リモートでの参加方法を検討してきましたが、11月2日に昨年中止となった児童委員研修会を、皆様のご協力のもと開催できましたことは、委員会として安堵しているところです。改めて課題もみつきり、更により良い形での研修会をめざして、意欲も湧いています。

指定都市市民児協(川崎市民生委員児童委員協議会)の研修会は、全民児連(全国民生委員児童委員連合会)が示している研修体系を基に企画されます。さらに、地域性や時代を反映した内容が求められます。本委員会では今後新たな取り組みも考えていますが、いずれにしても、会員の皆様にとって有益で共感できる研修会の実施に向けて、今後も努力してまいります。

情報誌編集委員会について

仁上 勝之

情報誌編集委員会のメンバーは、市民児協の小谷田常任理事を委員長として、各区から選出された民生委員児童委員7名と主任児童委員1名、そして事務局2名の計11名で構成されております。発行日は6月1日、12月1日の年2回を基本としますが、一斉改選のある年は11月1日に前倒し発行し、更に翌2月にも発行しています。発行までに平均4回の編集委員会が開催され、①日程 ②ページの割り振り ③原稿の依頼 ④校正 といった内容で進めています。コロナ禍の影響で日程のやりくりには苦勞しました。75号は9月1日に76号は2月1日にずれ込みましたが、無事発行できたことは幸いでした。

最近の特徴としては、75号から表紙を一新し、地域の行事や季節感のある風景をカラー写真でまとめております。表紙になるような写真があれば是非、編集委員を通してご連絡下さい。

また、内容的にも「各区・地区民児協だより」として、それぞれ7区の地域の活動や話題等を皆さまに執筆頂き、掲載ページ数も増やしました。身近な声として自身に重なる部分や、参考になることもあり読み易く感じられるのではないのでしょうか。これからも情報誌として従来通りの内容に加え、地域のいろいろな活動や事例等を掲載し、皆さまの活動の一助になるような誌面作りを目指してまいります。

編集後記

情報誌編集委員 浮岳 亮仁

コロナ禍で不自由な生活を強いられるようになって、2年が経とうとしています。中止された行事や、自粛せざるを得なかった活動をふりかえると、民生委員児童委員の活動の意義をあらためて感じます。多くの委員が苦勞しながらも、工夫を凝らして活動している様子を編集の中で感じ、これがよき体験談として語られる日が早く来てほしいと、心から思いました。



情報誌編集委員会	
委員長	小谷田 實
副委員長	仁上 勝之
委員	横島 正志
	内田 章
	竹内 敬二
	浮岳 亮仁
	小池 多恵子
	森 眞澄
若林 豊茂美	